

校内研究構想

東白川小学校

児童の実態

- 明るく素直な児童が多く、意欲的に学習に取り組むことができる。
- ハンドサインを活用し、深まりのある話し合いができる姿が、少しずつ定着してきた。
- 基礎学力の定着に個人差がある。
- 立場を明確にして質問や意見を述べる力や、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付け、まとめて書く力に弱さがある。

学校の教育目標

せいっぱい
きたえ
のびよう
東っ子

自分を出し切り
「笑顔いっぱい」に

東白川村教育夢プラン

【目指す子ども像】

- ① 自ら考えやり遂げる、主体性を持った子
- ② ふれあい助け合える、思いやりのある子
- ③ たくましい体力と気力を持った元気な子
- ④ ふるさを愛し、ふるさを誇れる子
- ⑤ 社会の一員という自覚を持ち、規範を重んじ貢献できる子

めざす姿

- ・主体的に学び、相手意識をもって話したり書いたりすることができる子
- ・安心して自分の考えを伝え合える「心が開かれた」集団
- ・郷土のよさに気付き、郷土を愛する心情や態度がもてる子

研究主題

自分を出し切り、自己表現する子どもの育成
～少人数であることのメリットを最大限に活かした指導の在り方～

研究仮説

児童にとっては自己表現できる時間と場が増え、個別の活動が確保できる。教師にとってはより確実に見届けられることや、より多く認め励ますことができるなど、少人数でこそそのメリットを最大限に活かした指導を行えば、自分を出し切り、自ら進んで考え、仲間とともに練り合いながら主体性をもって判断し、自己表現できる子どもを育成することができる。

研究内容

研究内容1 少人数を活かした学習活動・学び方指導の工夫

- (1) 各教科の特性に応じた、学習内容を深める話し合い（言語活動を手立てとして）
 - ・「聞く」「話す」の学年に応じたスキルアップを図る。
 - ・ハンドサインの活用による深まりのある学習展開を行う。
 - ・対話的な学びを行うための言語活動の工夫をする。
- (2) 各教科に応じた主体的な学び方の工夫
 - ・教科の特性に応じた主体的・対話的で深い学びにするための手立てを、単元指導計画の中に位置づける。
 - ・問題解決学習を行うために必然のある課題化を行う。
 - ・操作活動や調査活動など、従来はグループで行う活動の個別化を行う。
- (3) 少人数ならではの3つの見届けの確実な実践
 - ・特に定着状況の見届けを重視し、時間・教科に応じた方法・個に応じた手立ての位置づけを行う。
 - ・「今日の出し切り」で本時の乗り越えどころを明確に児童に示し、その点についての定着状況を確実に把握し、指導しきる指導姿勢を全教師がもつ。
- (4) 地域に根ざした題材・教材化の工夫
 - ・東白川ならではの、題材・教材化の工夫をする。

研究内容2 学び合える集団づくりの形成

- (1) 学級経営・仲間づくり
 - ・男女やグループなどが固定されない「心が開かれた」学級経営や仲間づくりを行う。
 - ・清掃活動や異学年集団遊び、行事等での縦割り集団の活用で幅広い仲間づくりを行う。
- (2) 全校で自己表現する場の設定
 - ・朝の会、帰りの会、集会活動などの工夫をする。